Presidential Award Presentation

## Presidential Award Presentation (II-PAL)

座長:坂本 喜三郎(静岡県立こども病院)

座長:安河内 聰(長野県立こども病院 循環器小児科)

Sat. Jul 8, 2017 8:30 AM - 9:20 AM ROOM 4 (Exhibition and Event Hall Room 4)

8:30 AM - 9:20 AM

## [II-PAL-05]両大血管右室起始症における conotruncal criss-crossの CTによる評価と外科的病型分類

 $^{\circ}$ 小出 昌秋 $^{1}$ , 前田 拓也 $^{1}$ , 岡本 卓也 $^{1}$ , 高柳 佑士 $^{1}$ , 瀬戸 悠太郎 $^{1}$ , 櫻井 陽介 $^{1}$ , 森 善樹 $^{2}$ , 中嶌 八隅 $^{2}$ , 金子 幸栄 $^{2}$ , 井上 奈緒 $^{2}$ , 村上 知隆 $^{2}$  (1.聖隷浜松病院 心臓血管外科, 2.聖隷浜松病院 小児循環器科)

Keywords: 両大血管右室起始症, Conotruncal Criss-cross, CT

【背景】両大血管右室起始症(DORV)の分類は Van Mieropらが提唱した conotruncal criss-cross理論が外科的術 式との関連において理解しやすい。今回我々は CTの画像から漏斗部中隔(IS)と心室中隔(IVS)の関係を分析し DORVの外科的分類を試みた。【対象と方法】当院にて1998年以降手術を行った DORV (PA、 Heterotaxyを除 く)33例のうち造影 CTを行っており、画像上 ISと IVSの形態が観察できた21例(解剖学的修復13例、機能的修 復8例)を対象とした。後方視的に診療情報を閲覧した。 MSCTによる画像は0.6mm厚で画像解析ソフト( TeraRecon社 Aquarius) により解析を行った。2D画像の体軸断面画像を前額矢状方向から調整し両半月弁輪レベ ルに合わせ、その角度のまま尾側にスキャンして ISおよび IVSを描出した。 IVS角度を0度として、それに対して ISが左室方向を向く角度を L、右室方向を Rとして、 IVSに対する ISの角度を L○°、 R○°と表現し conotruncal criss-cross理論の分類との関係を検討した。【結果】 IVSに対する ISの角度が左室側を向いているものが11例 (L群、 L6°~ L104°)、右室側を向いているものが10例(R群、 R0°~ R161°)あり L群は NGA群、 R群は TGA群と 分類した。 L群のうち臨床的に SDNあるいは ILINと診断されていたものは6例で L66°~ L104°、 SDDと診断され ていたものは4例で L52°~ L72°と前者の角度が深い傾向にあった。 SDDと診断のうち2例は Doubly Committed VSDで Taussig Bingに近い形態と考えられた。残りの1例は L6°と角度が極端に浅く Posterior TGAと診断されて いた。 R群10例は全例 SDDあるいは ILLと診断されており10例中7例は角度が浅く (R0°~ R33°)、角度が極端に 深い2例(R102°,R161°)は ACMGAと診断されていた。中間の R90°の1例は後方視的に ILDと診断した。【考察】 CTによる IVSと ISの関係から conotruncal criss-crossを観察することは DORVの外科的病型分類上有用であ り、術式選択の参考になることが示唆された。